

パブリックコメント実施結果について

意見募集期間：令和7年4月7日（月）から4月25日（金）
意見提出者数：6名（連名含む）
取りまとめの注意点：提出いただいたご意見等につきましては、取りまとめの都合上、適宜整理・要約させていただいております。

No.	項目	素案ページ	ご意見の内容	ご意見に対する町の考え方
1	全体	－	長距離トラックの休憩場所とし駐車場とトイレ等の整備が急がれるが、道の駅で何をPRし、販売するのかを具体的に検討する必要がある。	皆様からの様々なご意見を伺いながら、道の駅が単なる休憩施設に留まるのではなく、地域をPRし、活性化に貢献する拠点となるために、何をアピールし、どのような商品を販売するか運営者の意見も踏まえて具体的な検討を進めて参ります。
2	全体	－	あらゆる見識やニーズが盛り込まれすぎており、冷静さに欠ける点も見受けられる。	これまでに出示された様々な見識やニーズを改めて精査し、冷静かつ客観的な判断に基づいて、実現可能な事業を進めて参ります。
3	全体	－	いかに関東圏から人を呼び込めるか、道の駅に遊びに来たいと思わせられる仕掛けが作れるかが重要。人が多く来ることが、大熊町の復興につながる。	集客につながるような仕掛けづくりを検討して参ります。
4	必要性について	P10	梨・キウイについては栽培が始まったばかりで、生産量は少量である。その他の特産品で、通年で供給できる物はあるのか。働く場の人員確保のめどはあるのか。ほかの施設でも人員確保には苦慮している。人口規模からしてこれ以上の交流の場は必要か。	現状を踏まえ、年間通して供給できる加工品などの商品も検討して参ります。道の駅が目指すのは「特産品の復活の拠点」ですので、施設オープン後すぐに十分な量の販売は難しいかもしれませんが、一定の期間を経て、特産品が目玉となる道の駅を目指します。 人員確保についても、大熊町や近隣地域にお住まいの方々の雇用を積極的に促進するとともに、人材確保に関する課題や成功事例について情報収集を行い、より現実的な人員確保に向けて検討を進めて参ります。 道の駅においては、地域住民の交流の場に留まらず、広域からの観光客誘致と魅力発信拠点を目指しています。下野上・大川原エリアへのゲートウェイとして、情報発信や連携企画、魅力的なコンテンツを通じて周遊を促進し、町全体の消費拡大と活性化に貢献します。単なる「交流の場」ではなく、多機能で持続可能な地域経済発展のエンジンとなるよう、具体的な施設内容と運営方法の検討を進めて参ります。
5	道の駅の必要性	P10	【道の駅は地域振興の万能薬ではない】 ○県内36ヶ所の道の駅を少なくとも年2回は巡っているが、儲かっている／いつも賑わっていると思える箇所はさほど多くない。 ○いつも混んでいる場所は、周辺に複数「集客力の大きい」人気スポットがある。 ○道の駅はあくまでも「通過点」であって、最終的な「目的地」ではない。 ・通過点と目的地では施設の役割が異なり、またその運営方法も違ってくる。 ・通過点として成功している道の駅を参考に、それに似た機能が求められる。	大熊町の道の駅の整備においては、通過点という枠組みを超え、その地域ならではの魅力に触れ、幅広い世代が楽しむことができる目的地としての側面も持ち合わせた道の駅を目指しています。地域振興に資する施設として、明確なコンセプトの設定と具現化、そして持続可能な運営体制の構築、通過点と目的地の両方を兼ね備えた施設を検討して参ります。
6	必要性について	P19	常磐道のPAとしては一定程度の需要は見込めるが、大川原、駅西に次ぐ第3の拠点が必要か。	大熊ICという交通の要衝に位置する地理的優位性を最大限に活かし、単なる休憩施設という枠を超え、大熊町の魅力を力強く発信する多機能な賑わい創出の核とすることが、地域活性化の大きな鍵となります。町外から訪れる人々を、下野上・大川原エリアへと効果的に繋ぎ、周遊を促すことで、地域全体の活性化に大きく貢献します。この場所が、大熊町と町外を結ぶ活気あふれる架け橋となり、新たな賑わいを創り出す施設を目指します。

7	ターゲット	P20	【ターゲットをもう少し精査すべき】 ○交通量の観点からして、90％は常磐道を利用するドライバーになる。 ・ ということは「休憩機能」を最大の優先事項として施設づくりすべき。 ○広域圏民を約350万人も見込むのは大変危険。 ・ 珍しさから初回は来るがリピートは望めない。 ○彼らが住んでいる地域の方が遊ぶ場所・買い物する場所が多い。 ・ 大熊町の観光スポットはいずれも閉鎖されているため、他に見どころが無い。 ○近隣町村も含め、住民が急激に増えない状況にある中で、24時間営業はリスクが大きすぎる。	大熊ICという交通の要衝に位置する地理的優位性を最大限に活かし、大熊町の魅力を力強く発信する多機能な賑わい創出の核とすることが、地域活性化の大きな鍵となると考えます。休憩機能の充実を念頭に、よりよい施設づくりを進めて参ります。 広域圏からの350万人という目標数値に固執することなく、地域連携による魅力創出、イベントの開催、積極的な情報発信など持続的な集客が可能となる施設整備を検討して参ります。 現時点で24時間営業は休憩施設を想定しています。休憩施設は国土交通省で定めた「「道の駅」登録要件」において「利用者が無料で24時間利用できる①十分な容量を持った駐車場、②清潔なトイレ（原則、洋式）、③子育て応援施設（ベビーコーナー等）」であることが求められています。
8	施設配置計画		どこからでもすぐに見つかるわかりやすい施設配置計画としてほしい。	わかりやすい施設配置計画及びサイン計画を検討して参ります。また、道路標識による案内について各道路管理者と協議を進めて参ります。
9	トイレについて	P35	連休時のイベントで来場者が多いときに、女性用トイレに長蛇の列ができているため、女子用トイレの個室はたくさん設けてほしい。大きなストレスのないトイレは、それだけでセールスポイント。男性用と女性用の壁を可動式にして、女性用個室を増やせるようにしては如何か。また、今の主流で『育メン』と言われているように、パパが乳幼児のトイレのお世話をする時代。兄弟二人以上をママだけでお世話するのはとても大変なので、男性用のトイレにもベビーチェアやおむつ交換台を多数設置しては如何か。	基本計画に示すトイレの個数は、男女ともに「道の駅」のトイレの改善に関するチェックポイント」で示されている容量を確保した個数としています。快適にご利用いただけるよう、いただいたご意見を参考に整備を進めて参ります。
10	考慮すべきポイント	P50	【現存する道の駅の多くの課題に対応できるか】 ○売上の確保 ・ 持続的に地域産品を出店してくれる生産者がどれだけいるか。 ○他施設との差別化／地域のブランディング ・ 特産品が少ない中で、どうやって「大熊町らしさ」を演出するか。 ○マナーの悪い利用客への対処（24時間休憩できるという前提で生じる問題） ・ 無断での車中泊／ゴミの放置問題／駐車場での暴走行為など。	道の駅の多くの課題に関して、運営者の現実的な視点と具体的なノウハウを踏まえ検討を進めて参ります。他施設との差別化や大熊町らしさについても、あらゆる部門と連携し検討を進めて参ります。 なお、休憩施設は国土交通省で定めた「「道の駅」登録要件」において「利用者が無料で24時間利用できる①十分な容量を持った駐車場、②清潔なトイレ（原則、洋式）、③子育て応援施設（ベビーコーナー等）」であることが求められています。24時間休憩で生じる問題については、利用者の安全と快適性を確保するため、運営者と検討して参ります。
11	考慮すべきポイント	P50	【もし「道の駅」にするなら、後々必要となる維持管理コスト等も視野に入れて】 ○少人数でも運営できるような店舗設計。（視野を遮るものがなく店内を見渡せる工夫） ○計画の段階から施設運営会社を決めておくことを推奨。 ・ 施設の整備にあたり、国／自治体／民間でそれぞれ目論見が異なるため、モノが出来上がってから民間に管理を委託しても「これじゃ売上を作るのが困難」といった施設になるケースがある。 国：道路周辺の整備による利便性の向上 自治体：賑わい創出、地域・産業等の振興 民間：いかにビジネス（儲け）を伸ばすか ○大熊町はロケーションに「福島県の交通の要衝」であることから、ここを県内観光のハブとして位置づけ、「大熊に来れば県内のあらゆる土産品が買える」というコンセプトにしたら如何か。 ・ 特産品の少なさをカバーできる。 ・ 県内の土産品を扱う卸売業者に出品等を任せられる。	いただいたご意見を参考に、運営者の意見を十分に反映できるよう、設計や運営、商品販売等についてよりよい施設整備となるよう検討を進めて参ります。

12	来場者数の算定	P63	道の駅ふくしまと同程度の交通量が示されているが、合計は同じでも内容が異なる。自動車道と一般道の構成比が逆転している。常磐道を通過する交通量はそれなりにあるが、道の駅への入込客数は、見込まれる商圈の人口及び類似施設の状況も十分に検討する必要があるのでは。	来場者数の算定については類似施設の状況や商圈人口など改めて精査し、より現実的な予測となるよう検討を進めて参ります。なお、P 63に示した数字はあくまでも販売品などの詳細が確定していない中で、交通量からみるポテンシャルを整理したものとなります。「道の駅 ふくしま」は東北中央自動車道のICを降りて一般道から進入する道の駅ですが、大熊町では、常磐道から直接アクセスできる道の駅を整備する予定です。そのため、高速道路の交通量が多い方が入込客数については有利と言えます。
13	アイディア	－	巨大迷路を作ってはどうか。	ご意見を参考に、幅広い世代が楽しめる施設となるよう様々なアイディアを検討して参ります。
14	アイディア	－	インスタ映えするモニュメント （例：等身大のＯＯＫＵＭＡの文字、身長3メートルのまあちゃん像）	
15	施設	－	サイクリストが車で来て駐車し、サイクリングに来て便利な施設 （例：駐輪場、休憩所、着替え場所、シャワー、風呂）	ご意見を参考に、幅広い世代が楽しめる施設となるよう、検討して参ります。
16	施設	－	RVパーク、キャンプサイト利用者が使用可能な温浴施設。スーパー銭湯。	
17	出店する店舗	－	大熊（とその周辺）には、焼き立てのパンが食べられるところがない。「焼き立てのパンに入れたてのコーヒー」＝避暑地のようにくつろげる自然があるため、そこはとても魅力のある目的地となる。	ご意見を参考に、幅広い世代がくつろげる施設となるよう、出店について具体的な検討を進めて参ります。
18	カフェ	P38	若者の集客が見込めるカフェ （例：スターバックス、タリーズ、ドトール、Café Amazon、マクドナルド）	ご意見を参考に、幅広い世代が訪れる施設となるよう、出店について具体的な検討を進めて参ります。
19	店舗	－	若者の集客が見込める店舗 （例：ユニクロ、3COINS、ダイソー、Flying Tiger）	
20	産直・物販施設 レストラン・フードコート	P37、P38	軽食店、観光バスの人がおつまみを買える店 （例：かまぼこ串〈まる天〉、おにぎりや、大熊産フルーツジュースバー）	